

大室剛志教授 略歴・業績

〈略 歴〉

学 歴

- 1979年 3月 東京学芸大学教育学部中等教育教員養成課程英語専攻卒業
1979年 4月 東京学芸大学大学院教育学研究科（修士課程）英語教育専攻入学
1982年 3月 東京学芸大学大学院教育学研究科（修士課程）英語教育専攻修了 教育学修士
1982年 4月 東京学芸大学大学院教育学研究科研究生
1983年 3月 東京学芸大学大学院教育学研究科研究生修了
1983年 4月 筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科言語学専攻入学
1985年 3月 筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科言語学専攻修了 文学修士
1986年 3月 筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科言語学専攻退学

職 歴

- 1986年 4月 名古屋大学総合言語センター講師（1989年 1月まで）
1989年 2月 名古屋大学総合言語センター助教授（1991年 3月まで）
1991年 4月 名古屋大学言語文化部助教授（2002年 1月まで）
2000年 9月 ハーバード大学言語学科客員研究員（2001年 7月まで）
2002年 2月 名古屋大学言語文化部教授（2003年 3月まで）
2003年 4月 名古屋大学大学院国際開発研究科教授（2009年 9月まで）
2006年 4月 名古屋大学大学院国際開発研究科副研究科長（2008年 3月まで）
2006年 4月 名古屋大学教育研究評議員（2008年 3月まで）
2009年10月 名古屋大学大学院文学研究科教授（2017年 3月まで）
2017年 4月 名古屋大学大学院人文学研究科教授（現在に至る）
2017年 4月 名古屋大学国際機構国際言語センター長（2019年 3月まで）
2017年 4月 名古屋大学国際機構国際言語センター英語教育部門長（2019年 3月まで）

〈業 績〉

著 書

- 1 『動詞と構文』（単著）、研究社、（2018）
- 2 『概念意味論の基礎』（単著）、開拓社、（2017）
- 3 『語はなぜ多義になるのか』（中野弘三、早瀬尚子、井門亮、石崎保明、前田満と共著）、朝倉書店、（2017）
- 4 『意味論』（中野弘三、二村慎一、東博通、前田満と共著）朝倉書店、（2012）
- 5 『入門 生成言語理論』（田中伸一、阿部潤と共著）ひつじ書房、（2000）

論文

- 1 「構文イデオム化とその後の展開」 *JELS* 37号、106-112、日本英語学会、(2020)
- 2 「コーパスからわかる英語における周辺構文の諸相—動的文法理論の立場から—」『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論 2』165-183、開拓社、(2018)
- 3 「生成文法における自律意味論の必要性」『英文学研究（支部統合号）』11巻（特別寄稿論文）、179-186、日本英文学会、(2018)
- 4 「同族目的語の修飾要素の義務性と付加詞規則」『ことばを編む—登田龍彦教授退職記念論集—』2-16、開拓社、(2018)
- 5 「構文の成立過程とその後の展開—半動名詞構文を中心に—」『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論』64-77、開拓社、(2016)
- 6 「優先規則体系とコーパス」『コーパスと英文法・語法』169-194、ひつじ書房、(2015)
- 7 「意味拡張、融合そして強要」『言葉のしんそう（深層・真相）—大庭幸男教授退職記念論集—』57-69、英宝社、(2015)
- 8 「動名詞から分詞への変化：動詞 spend の補部再考」『言語研究の視座—坪本篤朗教授退職記念論集—』154-171、開拓社、(2015)
- 9 「同族目的語の決定詞について」『言語におけるミスマッチ—福地肇教授退職記念論集—』1-10、東北大学大学院情報学研究科、(2013)
- 10 「構文に見られる拡張」『日本英文学会第85回大会 Proceedings』205-206、日本英文学会、(2013)
- 11 「非言語伝達動詞 nod の意味変化とその補部構造」『言語変化—動機とメカニズム—』253-270、開拓社、(2013)
- 12 「意味から形を見る：優先規則体系と文法における拡張のメカニズム」 *JELS* 30号、180-186、日本英語学会、(2013)
- 13 「構文における変種について」『文法化と構文化』97-122、ひつじ書房、(2013)
- 14 「意味と統語のインターフェイス」『日本英文学会第84回大会 Proceedings』193-194、日本英文学会、(2012)
- 15 「補部をとる副詞の内部構造と外部構造」『21世紀英語研究の諸相—八木克正教授退職記念論集—』129-144、開拓社、(2012)
- 16 「補部をとる副詞について」『英語研究の次世代に向けて—秋元実治教授定年退職記念論文集—』93-104、ひつじ書房、(2010)
- 17 「構文の変種」『日本英文学会第80回大会 Proceedings』200-202、日本英文学会、(2008)
- 18 “Syntax-Semantics Mismatch and Determiners of Cognate Objects,” *An Enterprise in the Cognitive Science of Language: A Festschrift for Yukio Otsu*, 79-85, Hitsuji, Tokyo. (2008)
- 19 「特集：形式と意味のミスマッチ「形式と意味のミスマッチと同族目的語の決定詞」」『英語青年』2月号、19-21、研究社、(2007)
- 20 「構文イデオム you scared the living daylight out of me について」『英語語法文法研究の新展開—八木克正教授還暦記念論文集—』77-83、英宝社、(2005)
- 21 「基本タイプに支えられた派生タイプの豊かさ」『英語教育』9月号、63-65、大修館書店、(2005)
- 22 「基本から特殊へ」『英語教育』8月号、63-65、大修館書店、(2005)

- 23 「特集：学習英文法と英語学「英語学と英語教育の乖離を埋める一つの可能性」『英語青年』6月号、4-6、研究社。（2005）
- 24 「構文の基本形と変種—文法事項の配列順序への示唆—」『国際開発研究フォーラム—小栗友一教授退職記念号—』29号、91-105、名古屋大学大学院国際開発研究科。（2005）
- 25 「基本形と変種の同定にあずかる大規模コーパス—同族目的語構文を例に—」『英語コーパス研究』11号、137-151、英語コーパス学会。（2004）
- 26 “A Dynamic Approach to the *One’s Way*-Construction in English: From Simple Composition to Phrasal ‘Lexical’ Idioms to Constructional Idioms,” *Empirical and Theoretical Investigations into Language: A Festschrift for Masaru Kajita*, 588-603, Kaitakusha, Tokyo. (2003)
- 27 “A Case for the Preference Rule System: *I’d Rather You Didn’t*,” *Journal of Nagoya Gakuin University (Language and Culture): Collected Papers in Honor of Prof. Tsuneo Ono* Vol. 14, No. 2, 31-36, Nagoya Gakuin University. (2003)
- 28 「有標構文における有標性」『英語語法文法研究』9号、35-50、英語語法文法学会。（2002）
- 29 「*I’d rather you leave now.* の *you* は主格か目的格か」『英語青年』1月号、56-57、研究社。（2002）
- 30 “On the Conscious Use of the *One’s Way*-Construction,” *A Festschrift for Dr. Minoru Nakau on the Occasion of His Sixtieth Birthday*, 81-88, Kuroshio, Tokyo. (2001)
- 31 “A Dynamic Approach to the *One’s Way*-Construction in English: A Rough Sketch,” 阿部潤（編）『生成文法理論による文法の各モジュールにおける最小化に関する統合的研究』平成12年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)（課題番号 11410121）研究成果報告書、39-88。（2001）
- 32 「コーパスと英文法11、基本形と変種：*I’d rather you didn’t* をめぐって」『英語教育』12月号、34-36、大修館書店。（2000）
- 33 「コーパスと英文法7、*No sooner ... than* 構文のバリエーション」（深谷輝彦、滝沢直宏と共著）『英語教育』10月号、34-36、大修館書店。（2000）
- 34 「*One’s Way* 構文に起きる動詞と *One’s Way* 構文の意識的使用について(3) — Cobuild Direct の言語資料から言えること—」『言語文化論集』第22巻第1号、19-34、名古屋大学。（2000）
- 35 「コーパスと英文法6、特定の同族目的語について」『英語教育』9月号、29-31、大修館書店。（2000）
- 36 「コーパスと英文法3、*One’s Way* 構文の意識的使用について—Kirchner (1951) の観察を中心に—」『英語教育』6月号、34-36、大修館書店。（2000）
- 37 「*One’s Way* 構文に起きる動詞と *One’s Way* 構文の意識的使用について(2) — Cobuild Direct の言語資料から言えること—」『言語文化論集』第21巻第2号、59-73、名古屋大学。（2000）
- 38 「周辺の構文 *I’d rather you didn’t* における核と周辺」『名古屋大学におけるインターネット時代に適応した英語教育の環境整備』平成11年度名古屋大学教育研究改革・改善プロジェクト報告書、59-89、名古屋大学。（2000）

- 39 “Theoretical Problems on the *One’s Way*-Construction in English,” *Synchronic and Diachronic Studies on Language: A Festschrift for Dr. Hirozo Nakano (Linguistics and Philology 19)*, 107–119, Nagoya Reprint. (2000)
- 40 「One’s Way 構文に起きる動詞と One’s Way 構文の意識的使用について (1) — Cobuild Direct の言語資料から言えること —」『言語文化論集』第21巻第1号、3–16、名古屋大学。(1999)
- 41 「英語の Way-構文とその Lexicon での扱いについて」『日本認知科学会第15回大会論文集』、333–334、日本認知科学会。(1998)
- 42 “Delimitation in English Unergative Verbs,” *Studies in Language and Culture* Vol. 19, No. 1, 289–303, Nagoya University. (1997)
- 43 “Semantic Extension: The Case of Nonverbal Communication Verbs in English,” *Studies in English Linguistics: A Festschrift for Akira Ota on the Occasion of His Eightieth Birthday*, 806–825, Taishukan, Tokyo. (1997)
- 44 「語彙意味論的な観点からの意味拡張の問題：英語を例に」『日本認知科学会第14回大会論文集』267–269、日本認知科学会。(1997)
- 45 “Remarks on Goldberg’s Construction Grammar Approach to the *Way*-Construction,” *Multi-Media Network and Foreign Language Education*, 113–128, Nagoya University. (1997)
- 46 “Problems with Jackendoff’s Treatment of the *Way*-Construction,” *Studies in Language and Culture* Vol. 18, No. 2, 33–44, Nagoya University. (1997)
- 47 “Some Remarks on the Complements of *Nod* and *Smile*,” *Studies in Language and Culture* Vol. 18, No. 1, 93–104, Nagoya University. (1996)
- 48 “Message Object Constructions as Marked Constructions,” *The Internet and Electronic Data for Linguistic and Cultural Studies*, 177–185, Nagoya University. (1996)
- 49 “On the Similarities and Differences between Nonverbal Communication Verbs and Manner-of-Speaking Verbs in English (2),” *Studies in Language and Culture* Vol. 17, No. 2, 125–154, Nagoya University. (1996)
- 50 “On the Similarities and Differences between Nonverbal Communication Verbs and Manner-of-Speaking Verbs in English (1),” *Studies in Language and Culture* Vol. 17, No. 1, 107–127, Nagoya University. (1995)
- 51 “Critique of Tenny’s View on the Correlation between Delimitedness and Noun Phrase Passives/ Middles.” *Tsukuba English Studies* 14, 246–257, Tsukuba English Linguistic Society. (1995)
- 52 「同族「目的語」構文：動的なアプローチ」『現代英語学の諸相—宇賀治正朋博士還暦記念論文集—』397–406、開拓社。(1991)
- 53 「同族「目的語」構文の特異性(3)」『英語教育』1月号、68–72、大修館書店。(1991)
- 54 「同族「目的語」構文の特異性(2)」『英語教育』12月号、78–80、大修館書店。(1990)
- 55 「同族「目的語」構文の特異性(1)」『英語教育』11月号、74–77、大修館書店。(1990)
- 56 「英語における同族「目的語」について」『言語文化論集』第10巻第2号、13–28、名古屋大学。(1989)
- 57 「英語における半動名詞構文について」『言語文化論集』第10巻第1号、45–65、名古屋大学。(1988)

- 58 “‘Nominal’ *If*-clauses in English,” *English Linguistics* 2, 120–143, The English Linguistic Society of Japan. (1985)
- 59 “Problems on ‘Nominal’ *If*-clauses in English,” *English Linguistics Today: Papers Dedicated to Dr. Minoru Yasui by His Students*, 293–305, Kaitakusha. (1985)
- 60 「挿入節について— the fact is の場合—」『英語学』27号、92–117、開拓社。(1984)
- 61 「行為名詞表現について」『LEO』11号、19–37、東京学芸大学。(1982)
- 62 “Remarks on Verbal Existential Sentences in English,” *LEO* 9, 107–128, Tokyo Gakugei University. (1980)

その他参考

- 1 『最新英語学・言語学用語辞典』、開拓社。統語論用語編集（田中智之と共同編集）（2015）
- 2 “Review: *Natural Language Syntax*, By Peter W. Culicover, Oxford Textbooks in Linguistics, Oxford University Press, Oxford, 2009, xvii+490pp.,” *English Linguistics* 28: 1, 141–149, The English Linguistic Society of Japan. (2011)
- 3 「書評：Peter W. Culicover and Ray Jackendoff: *Simpler Syntax*, Oxford University Press, 2005, xvii+589pp.」『英文学研究』第84巻和文号、297–302、日本英文学会。(2007)
- 4 「書評：小野経男著『英語類義動詞の構文事典』、大修館書店、2007, xi+243pp.」『英語教育』11月号、93、大修館書店。(2007)
- 5 「書評：中村捷著『意味論—動的意味論—』、開拓社、2003, x+276pp.」『英語教育』3月号、90–91、大修館書店。(2004)
- 6 「書評：Yael Ravin and Claudia Leacock (eds.): *Polysemy: Theoretical and Computational Approaches*, Oxford University Press, 2000, xii+227pp.」『英文学研究』第78巻第2号、120–125、日本英文学会。(2001)
- 7 『ワードパル和英辞典』荒木一雄、天野政千代編、小学館。重要項目執筆。(2001)
- 8 『英語学用語辞典』荒木一雄編、三省堂。項目執筆。(1999)
- 9 『小学館ランダムハウス英和大辞典（第二版）』小学館ランダムハウス英和大辞典第二版編集委員会編、小学館。項目執筆。(1994)
- 10 『現代英文法辞典』荒木一雄、安井稔編、三省堂。項目執筆。(1992)
- 11 『生成文法の方位』平河内健治編、松柏社。紹介。『言語』8月号、138–139、大修館書店。(1990)
- 12 『現代英文法事典』安井稔編、大修館書店。項目執筆。(1987)

学会口頭発表

- 1 「構文イデオム化とその後の展開」（招聘発表）2019年11月10日 日本英語学会第37回大会 於 関西学院大学。
- 2 「構文の成立過程とその後の展開—半動名詞構文を中心に—」2015年11月21日 日本英語学会第33回大会 公開シンポジウム講師 於 関西外国語大学。
- 3 「周辺の構文に見られる変種に関するコーパス資料とその解釈をめぐって」2013年10月5日 英語コーパス学会第39回大会 シンポジウム講師 於 東北大学。

- 4 「構文に見られる拡張」2012年12月22日 日本英文学会関西支部第7回大会 招待シンポジウム講師 於 京都大学.
- 5 「意味から形を見る：優先規則体系と文法における拡張のメカニズム」(招聘発表)2012年11月11日 日本英語学会第30回大会 於 慶応義塾大学.
- 6 「意味と統語のインターフェイス—One's Way 構文を例として動的な概念意味論の立場から—」2011年10月30日 日本英文学会中部支部第63回大会 シンポジウム講師 於 名古屋大学.
- 7 「補部をとる副詞について：周辺部の分析に役立つ大規模コーパス」2008年11月16日 日本英語学会第26回大会 シンポジウム講師 於 筑波大学.
- 8 「構文の変種」2008年5月25日 日本英文学会第80回大会 シンポジウム講師 於 広島大学.
- 9 「構文の基本形と変種—文法事項の配列順序への示唆—」2004年11月14日 日本英語学会第22回大会 シンポジウム講師 於 独協大学.
- 10 「基本形と変種の同定にあずかる大規模コーパス—同族目的語構文を例に一」2003年10月25日 英語コーパス学会第22回大会 シンポジウム講師 於 明海大学.
- 11 「有標構文における有標性」2001年10月27日 英語語法文法学会第9回大会 シンポジウム講師 於 大阪市立大学.
- 12 「One's Way 構文について：Simple Composition から Phrasal Lexical Idioms へ更に Constructional Idioms へ—動的言語理論の立場から」1999年5月30日 日本英文学会第71回大会 於 松山大学.
- 13 「英語の Way-構文とその Lexicon での扱いについて」1998年6月27日 日本認知科学会第15回大会 於 名古屋大学.
- 14 「語彙意味論的な観点からの意味拡張の問題：英語を例に」1997年6月18日 日本認知科学会第14回大会 於 NTT 基礎研究所 (厚木).
- 15 「意味拡張—非言語伝達動詞の場合—」1996年5月26日 日本英文学会第68回大会 於 立正大学.
- 16 「英語における半動名詞構文について」1986年5月17日 日本英文学会第58回大会 於 関西学院大学.
- 17 「‘名詞節’としての if 節について」1984年11月17日 日本英語学会第2回大会 於 筑波大学.

学会および社会における活動

- 1 英語語法文法学会 会長、2016年4月～2020年3月
- 2 日本英語学会 理事、2014年4月～2018年3月、2020年4月～現在に至る
- 3 日本英語学会 評議員、2007年4月～現在に至る
- 4 日本英語学会 編集委員、2020年4月～現在に至る
- 5 日本英文学会 編集委員、2014年4月～2017年3月
- 6 言語系学会連合 言語系学会連合運営委員、2016年4月～2017年3月、2020年4月～現在に至る
- 7 英語語法文法学会 編集委員、1999年4月～現在に至る

- 8 英語語法文法学会 運営委員、2002年4月～現在に至る
- 9 日本英文学会中部支部 理事、2014年10月～現在に至る
- 10 英語語法文法学会 セミナー委員会副委員長、2015年4月～2016年3月
- 11 日本英語学会 広報委員長、2011年4月～2013年3月
- 12 日本英語学会 広報委員会副委員長、2009年4月～2011年3月
- 13 英語語法文法学会 編集委員長、2009年4月～2013年3月
- 14 英語語法文法学会 セミナー委員会委員長、2014年4月～2015年3月
- 15 名古屋大学英文学会 会長、2009年10月～現在に至る
- 16 日本英文学会中部支部 編集委員、1993年10月～1997年9月
- 17 名古屋大学英文学会 編集委員、1998年6月～2004年6月



大 室 剛 志 教 授